さくら

SAKURA

学校法人ノースアジア大学広報

NORTH ASIA UNIVERSITY

2013.1 January No. 233

CONTENTS

02 / 沢村賞受賞の高校OB摂津投手からのメッセージ
03 / 第5回ノースアジア大学文学賞
04 / 大学：模擬裁判　看護大：逢星祭
05 / 高校：淡水商工高来校、明桜祭　ほか
06 / のびのび幼稚園　ピアノコンサートほか
07 / さくら幼稚園　いもほりほか
08 / インフォメーション

さくら幼稚園　園祭

明桜高校 OB 攝津正投手が沢村賞を受賞

※写真提供：福岡ソフトバンクホークス株式会社
※摂津さんからのメッセージは平成24年にいただきました。

明桜高校のOBで、現在プロ野球の福岡ソフトバンクホークスで投手として活躍している攝津正（平成12年度卒）さん。

社会人を経て平成21年にホークスに入団し、初年度の最優秀新人賞、2年連続で最優秀中継ぎ投手賞を受賞。平成23年から先発投手に転向し14勝、今季は昨年を上回る17勝を挙げてパシフィックリーグの最多勝利投手賞。そして投手としての最高の賞である沢村賞を受賞しました。

このほど、ご活躍の攝津正さんから沢村賞受賞の感想と後輩達へのメッセージをいただきました。

平成24年の沢村賞の受賞の感想

正直なところ、選出されるとは思っていませんでした。投手として最高の賞ですので今後の励みになります。ただ、7項目の選考基準のうち「完投数10」と「200イニング」は達成できませんでした。今年の目標は、チームの勝利のために完投数を増やし、より多くのイニングを投げることでしたので、それを達成できなかったことには悔いが残ります。まだまだ投手として求めるべき部分があるということです。沢村賞の受賞は今季の成績までのこと。これからさらに上を目指して練習に励んでいきたいと思います。

高校時代に学校生活の中で心掛けていたこと

高校時代は野球一色でした。すでにプロを意識していたので、練習はもちろん日常生活や学校生活の中でも「少しでも上手くなりたい、同級生には負けたくない」という気持ちを持って過ごしていました。プロ野球選手としてぴったりな負けず嫌いの性格は、高校時代に培われたのかもしれませんね(笑)。学校生活のすべての時間と行動を野球に結びつけていましたので、一見野球の技術向上とは関わりがなさそうな勉強や授業に対しても「野球が上手いだけではプロになれない」という考えで取り組んでいました。

勉学・スポーツに励む母校の後輩へのメッセージ

今を大切に、何事にも全力で取り組んで欲しいと思います。その時間を過ごすうち、向上を目指したくなるひとつのものが見つかるはずです。もうすでに人生を賭けたい夢を持っている人もいるかもしれません。そうなったら、小さな目標を立てて一つ一つ自分を越えて下さい。野球でいえば「1kmでも速いストレートを投げたい」「1球でも多く投げられるスタミナをつけたい」といったような、頑張れば達成できそうな目標を積み重ねていって欲しいと思います。高校時代に向上を目指して全力を捧げてきた時間は、たとえそれが社会に出た後の職業に繋がらなくても、何かしらの形で糧となって活きてくるはずです。後輩の皆さんが、それぞれの世界で活躍する日を楽しみにしています。

第５回ノースアジア大学文学賞授賞式・記念コンサートを開催

12月１日、本学古田記念講堂において、第５回ノースアジア大学文学賞授賞式・記念コンサートを開催しました。

今回は、高校生の部門、大学生・一般の部門を含めて全国から394作品の応募があり、高校生の部門エッセイの部は後藤のはらさん（横手市）、同部門短編小説の部は城谷匠さん（東京都）、大学生・一般の部門では石原敏子さん（秋田県）が最優秀賞を受賞しました。

各賞の表彰後、内館牧子氏、石川好氏の２人の審査員から今回の文学賞の講評をいただきました。この中で内館氏は「高校生の部門、一般・大学生の部門に共通していることですが、冗長になっています。エッセイが上達するひとつの方法として文章を削る作業をしてください。そうすることで不必要な部分が削られてインパクトとリズム感が出て、はじめに書いたものより伝えたいことがはっきりとすることがあります。長い文章を少し短くする作業を行ってみてください」と述べました。また、石川氏は「大学が主催する文学賞などでは、賞とともに作家が育っていくことがあります。昨年推薦した方が、今年度改めて小説で応募し、最優秀賞を受賞したことは、この賞の意義のあるところだと思っています。もうひとつは、不況や原発事故などが社会に反映してなかなか笑いを作り出せない状況にありますが、もう少しユーモアのある作品の応募があっても良いのではないかと感じました」と述べました。

授賞式終了後、高校生の部門エッセイの部で内館牧子特別賞を受賞した中島夏希さん（明桜高校１年）は「自分の書いた文章を作品として発表するのは今回が初めてです。書きたいと思うことがたくさんありましたので、書き始めるまでに多くの時間を費やして締め切りの直前まで書いていました。内館先生の講評の中で作品を褒めていただいたことはとてもうれしく思います。また、講評の際に小説を書くことを考えてはと勧められましたので、来年は短編小説の部に作品を提出してみたいと考えています」と受賞の感想を話しました。

【高校生の部門】

エッセイの部

最優秀賞		
進化するマーガリン	後藤のはら	横手市
優秀賞		
いもうと	奥野　純香	秋田市
神様からの贈り物	小林　駿介	秋田市
内館牧子特別賞		
年下の女の子	中島　夏希	秋田市
石川好特別賞		
日本の夏の風物詩	青山　大悟	秋田市

小説の部

最優秀賞		
さいごの感謝祭	城谷　　匠	東京都足立区
優秀賞		
白い時計屋	伊藤　海優	秋田市
18と16と30、思うこと	白賀　仁智	横手市

学校賞
秋田県立横手高等学校

※高校の所在地を記載しています。

【大学生・一般の部門】

エッセイの部

最優秀賞		
大きな木が欲しい	石原　敏子	秋田県大潟村
優秀賞		
花嫁の父	後藤　　順	岐阜県岐阜市
真夏日	田中　陽子	兵庫県川西市
母のまな板	中村　良子	東京都葛飾区
内館牧子特別賞		
雪形	海藤　敏雄	東京都杉並区
石川好特別賞		
日本人に伝えたい元日本兵台湾人の話	上田　真弓	千葉県成田市

正当防衛か殺人未遂か　模擬裁判を開催　大学

10月6日、今回の講演で21回目を迎える法学部の伝統行事「模擬裁判」を古田記念講堂で開催しました。

今年のテーマは「正当防衛か殺人未遂か」です。電話で口論の末に被害者宅へ押しかけた被告人は、被害者から空き瓶でなぐられたため、出刃包丁で反撃。被害者に重傷を負わせた被告人の行為に正当防衛が認められるかが争点となりました。

審理の場面では、被告人、検察、弁護側によるそれぞれの証人への質問を行い、検察側は被告人が積極的な殺害の意思を持っていたとして殺人未遂罪を主張。一方で弁護側は正当防衛による無罪を主張しました。評議では裁判官と裁判員がいろいろな意見を出し、検察官と弁護人が挙げた証拠を一つひとつ検証しました。

また今回は、公演の冒頭や休憩の時間を利用した○×形式の質問を行い、来場者の皆さんに参加していただきました。

判決では被告の殺意を認めた上で、過剰防衛による殺人未遂罪で懲役3年の実刑が下され、来場者のアンケートでも、被告人の過剰防衛とする意見が最多となりました。

地域住民との交流が深まる　逢星祭　看護大

秋田看護福祉大学で、10月20・21日に大学祭「逢星祭」を開催しました。

今年のテーマは「心ノカタチ　人ノカタチ」で、看護学科3年の佐々木優太郎さんが、お世話になっている人たちへ、日頃自分の気持ちをどのように表現しているか振り返り、言葉だけでなく体全体で表現してみようという思いを込めて作成しました。

看護・福祉学科の4年生による研究発表のほか、介護体験や心肺蘇生法、AED体験、止血法、赤ちゃん抱っこ体験、乳がん触診、子宮がんについてなどそれぞれの学科で普段学んでいる内容にふれる体験コーナーを多数設置。また、学生による模擬店をはじめ、実習で交流のある各種施設によるパン、アイスクリームなどの手作りのお店を出店しました。その他、健康と福祉の相談コーナーや進学説明会を実施し、盛りだくさんのイベントでお客様に楽しんでいただきました。

大館神明社の清豊講の山車や餅まき、後夜祭でのカラオケ大会などのイベントにも、大勢の地域の方々にご参加いただき、地域の皆さんとの交流が深まった大学祭となりました。

明桜高校

淡水商工高校が明桜を訪問

12月10日、台湾の国立淡水高級商工職業学校（以下淡水商工）の訪日団が明桜高校を訪れました。明桜高校は昨年度、淡水商工と姉妹校協定を締結しており、相互に生徒の短期留学を行っています。生徒30人を含む35人の一行は、明桜生らの出迎えを受け、歓迎会では一行を代表して林恭煌校長が「両校の交流をさらに深め、さらなる絆を築きあげていきたい」と述べました。また、明桜からは生徒を代表して2年の根田文平さんが、中国語で台湾への短期留学でお世話になったことへの感謝を述べ、「短い期間ですが良い交流をしましょう」と呼びかけました。

初日は歓迎会の後、生徒らと一緒にヤートセやよさこいを踊り、餅つきをして日本の文化体験を楽しみました。2日目は異文化理解講座としてそれぞれの学校紹介を行ったあと、パートナーの生徒たちと一緒にバスケットボールやスケートなどのスポーツを通して交流しました。

短い期間でしたが、お互いが異なる文化に触れ、大いに刺激を受けたようすでした。

生徒一人ひとりの個性を響かせる　明桜祭

10月19・20日の2日間に渡り、明桜祭を開催しました。秋晴れとなった20日は地域の方への開放日で、朝から大勢のお客様が明桜高校に訪れました。

校内にはクラスごとに旗をデザインしたクラスデコレーション、部活動や研究科目、学年別に日頃の学習や活動の内容を掲示し、明桜高校独自の授業設定による取り組みの成果を発表しました。生徒玄関前では2･3年生による模擬店を出店。第一体育館では、吹奏楽部やチアリーディング部、ダンスや特技披露など多彩なステージイベントを行いました。

また、学校祭でははじめての試みとなる、3年生による合唱コンクールを行い、3年C組が優勝しました。

岐阜国体で準優勝

明桜高校レスリング部3年の多胡島伸佳さんが岐阜国体で活躍しました。多胡島さんは、第67回国民体育大会ぎふ清流国体に、秋田県代表として出場。レスリング競技少年男子フリースタイル66kg級で準優勝しました。

10月2日から始まったこの競技で、多胡島さんは2回戦から出場し、準決勝までの3試合を全て2-0で勝利し、決勝に進出しました。決勝では惜しくも敗れましたが、準優勝の栄冠に輝きました。

のびのび幼稚園

すてきな音色にあわせて踊ろう

10月12日、のびのび幼稚園・保育園で、地域の方や保護者の皆さんをお招きしてピアノコンサートを行いました。秋田県出身のピアニスト伊藤伸さんが、テレビ番組でよく流れてくるクラシックや、アニメ映画の主題歌など、みんなが知っている曲を弾いてくれました。曲の合間には、伊藤さんから園児たちに「ピアノをやっている人？」と質問があり、大勢の園児が手をあげました。「この曲は知っているかな？」と問いかけると、「知ってる！」と元気よく返事をしました。ピアニカとピアノを同時に弾くなどバラエティーにとんだ演奏で、園児たちはきれいな音色に引き込まれていきました。年長組のキラキラ組・ぴかぴか組さんが、伊藤さんに「なぜピアノを始めたのですか」「なんさいからピアノを始めたのですか」「好きな音楽は」などと質問すると、一つひとつていねいに答えてくれました。園児たちは、「となりのトトロ」に合わせて手拍子でうたったり、「マルマルモリモリ」の曲に合わせて踊ったりと、楽しい時間をすごしました。

10月20日、のびのび幼稚園・保育園で秋祭りを行いました。在園児とその保護者の皆さんはもちろん、地域の方までたくさんのお客様をお迎えしました。

子どもたちは、目当ての景品にねらいをさだめ、お菓子つりやヨーヨーつりに熱中していました。一番人気は輪投げで、お開きの時間まで途切れなく列ができていました。お友だちが上手に輪を入れると拍手したり、何度も列に並んで挑戦する子もいましたよ。先生たち手作りのクッキーとポップコーン、保護者会の皆さんによるバザーも大人気です。女の子たちは、おうちの人たちが手作りしたかわいい小物などを真剣に選んでいました。この秋祭りでは、子どもたちも自分の財布からお金を出して、買い物に挑戦です。子どもにとっては、財布からお金を選んで出すのもちょっと時間がかかりますが、みんなきちんと順番に並んで買い物をしました。

ふだんの頑張りを発表

11月17日、のびのび幼稚園・保育園でおゆうぎ会をひらきました。最初は、幼稚園の年長さんの立派な司会で、保育園の園児たちが発表。0歳児のころころ組から元気にお返事ができる子もいて、おうちの人たちも感心していました。1歳児のとことこ組になると、リズムに乗ってしっかりと踊れる子もいて、会場の微笑みをさそっていました。幼稚園の年少さんは、年長さんが踊っていたあこがれの「よっちょれ」に挑戦です。年長さんに負けないくらい元気に踊りました。ちびっこカウボーイでは、決めポーズでかっこよくピストルを構えます。年中さんは「おおきなかぶ」のオペレッタで、最後はみんなで大きなかぶになりました。年長さんは、「ねずみのよめいり」の劇で一人ひとりがセリフを言います。決めポーズも、みんなでアイデアを出して配役ごとに相談して決めました。保育園・幼稚園とも先生方が、その年齢の子どもたちが興味を持って取り組んでいることを伸ばすようにプログラムを組んでくれて、園児たちはみなのびのびとふだんの取り組みを発表していました。

さくら幼稚園

大きなおいもがとれました

ぽかぽかと暖かい陽気に恵まれた10月17日、さくら幼稚園の園児が全員でいもほりをしました。幼稚園バスの運転手さんだった神居さんの畑におじゃまして、みんなでさつまイモを掘ります。ツルが出ているところの土をほると、中から大きくて立派なさつまイモが。園児たちは、掘り出したさつまイモを掲げて先生に「とれたよ！」と報告していました。畑でミミズや虫を発見して捕まえる子もいましたよ。みんなで協力してとったイモは、園に帰ってから焼き芋をして、帰りには自分たちで掘ったイモをおみやげにもらいました。

おうちの人やおともだちと楽しい秋の一日を

10月13日、さくら幼稚園で秋祭りを行い、保護者の皆さんをはじめ、卒園児や未就園児まで、大勢のお客様がいらしてくれました。子どもたちは、お玉すくいやくじ引き、サッカーなどのコーナーに、きちんと列を作り、自分の順番になるとチケットを渡してゲームに挑戦しました。紙コップと新聞紙を使ったけん玉を作る工作のコーナーでは、紙コップに思い思いの絵を描くことに熱中する園児たちの姿が見られました。保護者の皆さんの手作りの品が並んだバザーも、開店と同時にレジに長い列ができました。おゆうぎ室ではおにぎりやお団子、ソーセージ入り揚げパンなどが売られており、みんなでテーブルを囲んで食べました。

11月10日、さくら幼稚園で園祭をひらきました。おうちの人たちがたくさん見に来てくれたので、みんな張り切って歌ったり踊ったりしました。はと組さんのはじまりのあいさつで園祭がスタート。「となりのトトロ」が大好きなひばり組さんは、春から踊っていた踊りを、元気いっぱいに披露します。今年のつばめ組さんは、オペレッタが大好きです。自分たちからすすんで毎日練習した成果を発揮しました。劇の中に、縄跳びや体操、サッカーなど、園児たちが得意なことを披露する場面があります。体操の場面では、園児が自分たちで考えたセリフもあり、園児たちのアイデアがたくさんつまった発表となりました。最後に園児全員で合唱しました。いつもは最初の出番が終わったらスモックに着替えるひばり組さん、はと組さんも、今日は最後の合唱まで衣装を着て待っていることができましたよ。みんなが衣装を着て歌ったステージはとても華やかでした。保育室や廊下にも、みんなが一生懸命作ったタペストリーやフォトフレーム、絵などが飾られています。この日に向けて頑張ってきたことを出し切り、おうちの人に見てもらった子どもたちは、とても満足した様子でした。

さくら SAKURA No.233
平成25年1月31日 編集・発行 理事長総室 〒010-8515 秋田市下北手桜守沢46-1 Tel. 018-836-6527 Fax. 018-836-3321 URL. http://www.northasia.jp/

ハレとケの生活展を開催

雪国民俗館では、11月1日から12月1日まで、第4回企画展「ハレとケの生活展」を開催し、ハレとケの衣装約40点を展示しました。これまで雪国民俗館本館でも一般公開していなかった資料も多数展示。特に、女性が成人式で着用した振袖や、長さ427cm幅282cmの巨大な幟が訪れた人たちの関心を引いていました。年配の来場者は、昔目にしたことのある衣装を見て懐かしさを感じたようすでした。また、係員に「ハレ」と「ケ」の意味や、幟の図柄について質問する来場者もおり、解説を聞きながら秋田の民俗性の豊かさに感心していました。

また、11月28日には、見学者から雪国民俗館に寄贈された山ぞりの組み立て実演会を行いました。この山ぞりは、明治後期から大正初期に製作され、山から杉丸太を運ぶのに使用したものです。組み立てには熟練の技が必要とされており、寄贈者である斉藤信勇氏のご厚意で実演していただきました。見学者も斉藤氏に教えられながら作業の補助をする場面もあり、先人の生活の知恵の一端に直に触れる機会となりました。

明桜吹奏楽部定期演奏会

10月8日、明桜高校吹奏楽部が秋田県民会館を会場に定期演奏会を開催しました。

1部のクラシックステージでは、ラストの3曲目に、秋田吹奏楽団がバンタ賛助で出演。2階客席に登場し、力強い演奏で会場を沸かせました。2部のゲストステージでは、秋田県青少年音楽コンクールで2年連続グランプリを受賞したサクソフォーン奏者、由利賢助氏を招いて軽快に演奏しました。3部のPOPSステージでは、この演奏会を最後に引退する3年生が、1・2年生の演奏で「ベストフレンド」を合唱し、会場から大きな拍手をいただきました。

公演の最後に吹奏楽部部長で3年の伊藤愛さんが「部員たちは、今年1年いろいろなことを乗り越えてがんばってきました。今の1・2年生と来年入部する生徒と力を合わせて明桜高校吹奏楽部の音をさらに良いものにして欲しいと思います。これからも明桜高校吹奏楽部へのご支援をお願いします」と挨拶しました。

明桜高校の制服がミュージックビデオに登場

AKB48の渡辺麻友さんが、ソロシングル「ヒカルものたち」のカップリング曲「サヨナラの橋」のミュージックビデオで、明桜高校の制服を着用しました。

このミュージックビデオでは、全国47都道府県の高校から各県ごとに1校選び、渡辺麻友さんが47校の制服を着用しています。

秋田県からは明桜高校の冬服が選ばれ、ポスターやトレーディングカードも作成されました。

このポスターは、大学、高校の校舎内の各所に掲示してあります。また、ミュージックビデオはYouTubeでも視聴できますのでご覧ください。